

平成 30 年6月のブログ記事

「言わずとも想いは一つ、しかし伝えることで想いは深まる」
(府立長野北高等学校パッケージ研修支援 I)

みなさんはパッケージ研修支援をご存じでしょうか？

パッケージ研修支援とは、組織的な授業改善をすすめる学校を、大阪府教育センターが継続的に支援する取組みです。

6月19日(火)、府立長野北高等学校において、第1回のパッケージ研修支援の全体研修会を行いました。同校は、今年度初めてパッケージ研修支援に申込み、学校全体で組織的な授業改善に取り組もうとしています。

「これまでの取組みを生かしつつ、パッケージ研修支援、授業公開、ICTの活用を3つの柱として、『わかる授業』、『楽しい授業』をめざす」という長野北高校の授業改善のビジョンを校長先生が示された後、大勢の教員で日々の授業における課題や工夫について協議しました。

先生方が、生徒の姿を思い浮かべながら「長野北高校の生徒につけたい力」として挙げられたものは、「考える力、思いやる力、最後まで粘り強く取り組める力」、「しっかりと自分の想いを表現できる力」等です。

教科や教職経験年数を超えた議論の中で、長野北高校の教員が考える「課題」や「生徒につけたい力」が共通であることが確認されました。普段はなかなかお互いの想いを話す機会がないかもしれませんが、こうした研修の場で話し合うことで改めて自分たちがやりたいこと、進むべき方向が共有できるのではないのでしょうか。全ては生徒によりよい成長を促すため。教員の想いが合わされば、日々の教育活動はよりその効果を増します。今後は、社会科の研究授業を行い、全教科の授業改善へつなげます。

点から面へ。動き始めた長野北高校を大阪府教育センターは引き続き支援します！



(高等学校教育推進室)

平成31年2月のブログ記事

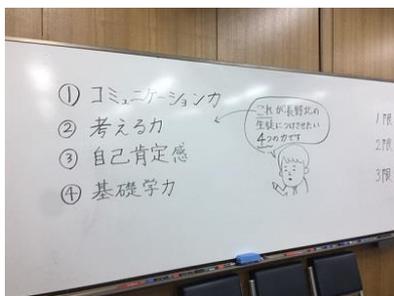
「今年度の取組みのその先へ」（府立長野北高等学校パッケージ研修支援Ⅰ）

府立長野北高等学校では前回(6/19)の全体研修で教科を越えて生徒につけたい力を全教員が共有しました。そこで話された内容を基に、授業研究プロジェクトチームが中心となり、「コミュニケーション力」、「考える力」、「自己肯定感」、「基礎学力」という4つの力を設定し、全教員で共有しています。

1月17日(木)に、公民科が4つの力の育成をめざした研究授業を行いました。裁判員制度導入の意図を理解し、自分が裁判員だったらどのような判断を下すかを考え、表現することで正義、公正などの観点から社会的事象を多面的にとらえさせるという内容です。映像で架空の裁判の様子を見た後、その判決結果や判決に至るプロセスについて、生徒一人ひとりの意見を引き出すという流れで授業は進みました。ICTを活用し、生徒の個々の意見を教室前方のスクリーンに集約し、全員で共有、比較することでさらに自分の意見を深めていきます。

その研究授業を受けて、1月31日(木)には研究協議を行いました。事前にビデオ撮影された研究授業の様子は教員全体でも共有されています。「研究授業において良かった点、改善点」を出し合い、長野北の生徒につけたい力に即しながら、教科別に編成したグループで協議を行ったところ、「タブレットの活用により、個々へのフィードバックが丁寧に行われていた」、「自らの考えを表現するためのグループ協議が行われていた」等、生徒の学ぶ様子を根拠にした意見があがりました。次に、「長野北の生徒につけたい4つの力の育成に向けて、できる工夫」についての話し合いです。各教科から、「生徒が積極的に考えられる課題設定が必要」、「スモールステップを意識して、生徒に自己肯定感を」、「グループで一つの作業を行うことで協働的な学びができるのでは」といった「めざす生徒像」につながる具体的な手立てが共有されました。

指導技術の工夫など、教科を超えて共有し協働する。4つの力の育成をめざして、共有された手立てを一人ひとりの教職員が意識して授業に取り組んでいけるようになれば、生徒の学びは点ではなく面として支えられるようになります。学校としての組織力が増すことで、生徒一人ひとりに「生きる力」や「確かな学力」をより一層確実に育むことにつながっていくのではないのでしょうか。長野北高校の今年度の取組みは、次年度へつながる大きな一歩となりました。今後の継続的かつ組織的な授業改善の動向にご注目ください！



(高等学校教育推進室)